

若年層の視力の低下が深刻化

岡山県上海事務所 小林和暁

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

現況

中国では、全国的に若年層の視力の低下が深刻化しています。2012年に中国国家教育部と衛生部が行った調査では、現在中国全土に視力に問題がある者は約4億人おり、うち青少年は2億7千万人にも上ることがわかりました。近視率は33%で日本に次ぎ世界第2位、世界平均の22%より1.5倍も高くなっています。視力に問題がある者は小学生では28%、中学生では60%、高校生では85%にも上り、その比率は現在も上昇し続けています。なお、2013年の上海衛生部のサンプル調査によると、上海市では小学生の32.8%、中学生の68.4%、高校生の84.9%で、全国に先駆け低年齢化が顕著になっています。極度の近視者は20%に達し、過去10年間で10%も上昇しました。

視力低下の原因

若年層の視力低下が深刻化している原因のひとつに、電子デバイスの普及があります。所得水準の上昇に伴い、パソコン・スマートフォン・タブレット・電子書籍などの多くの電子デバイスが普及し、日本でも問題となっている「歩きスマホ」も日常的に見かけられるようになりました。地下鉄、路線バス、タクシー等にはニュースや広告を流すモニターが必ず設置されています。

また、若年層を中心にアニメやオンラインゲームなどの目を使うインドアの娯楽も流行して

おり、日常生活において相対的に屋外活動が少ないことも原因のひとつとなっています。中国では毎日8,000万人がオンラインゲームを楽しんでいると言われており、ゲーマーの多くは若年層です。

娯楽だけが視力に影響を与えているわけではありません。学校では毎日多くの宿題が課されるほか、教育熱が高い中国では親が学校以外でも子供に英語や数学等を学ばせることも多く、必然的に目に多くの負担がかかっています。子供の視力の低下に危機感を持つ親も多いですが、一方で小さな子供をスマートフォンであやす光景もよく見かけ、必ずしも親の意識が高いとは言えません。

社会への影響

若年層の視力の低下は、視力による採用制限があるパイロットや徴兵等、社会にも影響を及ぼし始めました。町中には多くの眼鏡店があり、大都市圏では日系の格安眼鏡店もすでに進出しました。中国人の視力低下に伴う影響は今後も広がっていくものと思われます。

(2014年6月)